

キャリア教育新聞

No.9

2025年 10月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

キャリア教育関係者約50名が一同に会する

10月10日(金)にキャリア教育支援協議会とキャリア教育委員会の第2回会議を合同で開催された。塩尻市内の産業(事業所)・市役所・小中学校・公民館に所属するキャリア教育の関わる委員約50名が塩尻総合文化センター講堂に集まり、塩尻市キャリア教育アドバイザーを務める赤井友美氏(株)4Sines代表取締役)を招き講演会とワークショップを行った。

赤井氏は講演の中で、特に現状についてはOECD諸国にくらべ日本の若者は「日々の生活で不安や憂鬱を感じる」割合が高く「社会の一員感」が薄い中で、「勉強する意味を見出せない」と答える割合が10%以上いることに対して、子ども達に自己と社会のつながりを意識させ社会の一員として目標をもってチャレンジしていくスキルをつけさせることが必要と訴えた。

ワークショップでは子ども達を取り巻く現状をとらえバックキャスト(逆算的思考)を用い、キャリア教育に係る人々でビジョンを共有し、それぞれの立場でどんなアクションを起こすべきかをテーマに取り組んだ。

具体的には「将来どんな塩尻であって欲しいか?」↓そのために「大人は、子どもはどうあるべきか?」↓そして我々は「どんなアクションを起こすべきか?」と逆算的思考で考えることで、目の前の課題を解決する対処的な方法ではなく、根本的な解決に向けて参加者が様々な意見を出し合った。



▲ ある班のワークショップの成果物

赤井氏講演要旨【現状把握編1】

若者の意識についての現状 (OECD諸国との比較)

自国の将来に明るい見通しをもてず日々不安や憂鬱を抱え社会の中での自分を見出せない割合が高い。その中で約10%の若者が何のために勉強するかの意味が見いだせなくなっている。

△参考△

日本 (12.7%)・米国 (3.4%)・英国 (2.4%)・中国 (0.2%)・韓国 (2.8%)・インド (0.8%)



両小野中学校
松嶋先生

先生以外の方たちと一緒に、子どもたちの将来についてだけでなく、市全体のこれからについて考えることができ、新たな視点を獲得することができました。



都市大塩尻高校
天井澤先生

多くの学びを得る機会となりました。講師の赤井氏がお話されていた「若者自身の興味や好奇心を育む教育環境」の創出。この点を再認識した次第です。会で共有された認識のさらなる広がり、提案されたアイデアの可能な点からの実践ができれば、さらに、僕自身もそうですが、大人が学び続けること。これからの社会(塩尻)を創出する可能性を秘めた会に感謝するとともに、今後の展開を大いに期待しています。

合同会議の感想

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線:3112)